超都市からの建築家たち

Architects from HYPER VILLAGE

乾久美子
Kumiko Inui

五十嵐淳
Jun Igarashi

大西麻貴
Maki Onishi

垣内光司
Koji Kakiuchi

木村松本
Kimuramatsumoto

SPACESPACE
SPACESPACE

徳山知永
Tomonaga Tokuyama

dot architects
dot architects

中村竜治
Ryuji Nakamura

中山英之
Hideyuki Nakayama

能作文徳
Fuminori Nousaku

長谷川豪
Go Hasegawa

藤本壮介
Sou Fujimoto

藤村龍至
Ryuji Fujimura

松岡聡田村裕希
MATSUOKASATOSHITAMURAYUKI

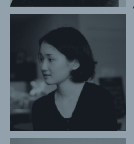
満田衛資
Eisuke Mitsuda

森田一弥
Kazuya Morita

吉村靖孝
Yasutaka Yoshimura

Kumiko Inui

Jun Igarashi


Maki Onishi

Koji Kakiuchi

Kimuramatsumoto

SPACESPACE

Tomonaga Tokuyama

dot architects

Ryuji Nakamura

Hideyuki Nakayama

Fuminori Nousaku

Go Hasegawa

Sou Fujimoto

Ryuji Fujimura

MATSUOKASATOSHITAMURAYUKI

Eisuke Mitsuda

Kazuya Morita

Yasutaka Yoshimura

hiromiyoshii
1-3-2, Kiyosumi, Koutou, Tokyo, Japan
Tel: +81-3-5620-0555 Fax: +81-3-5620-0550
info@hiromiyoshii.com
www.hiromiyoshii.com

2010.8/6 fri -10/2 sat
Sundays, Mondays and Public Holidays Closed
10-14 August Closed for Summer Holiday
Open | 12:00-19:00

TEAM ROUNDABOUT
curated by
www.round-about.org
aarart-it.asia

#AFHV
Hashtag on TWITTER

2 CATALOGUES WILL RELEASE ON JULY AND OCTOBER

建築は私にとって謎に満ちあふれた存在です。
建築とはいったい何なのか、そのことがとても気になります。
その回答は非常に小さな世界で
みつかるような気もしますし、
反対に大きな世界で見つかるような気もします。
いずれにせよ、すごく繊細にものごとや
世界を見続けることが大切な気がします。
———Kumiko Inui

私は「ローカルな必然性」を意識し
建築に取組んでいる
ローカルには様々な「状態」が存在する。
それら全てを等価に扱い、
丁寧に読み解くことで生まれる
「新しい普遍性」に可能性を感じている。
そして「新しい普遍性」を獲得することにより、
世界中に広がるそれぞれのローカルな風景が
素晴らしい光景へと変化していくことを夢見ている。
———Jun Igarashi

建築は、そこを訪れる人の気持ちを
豊かにするものだと思います。
同時に、時間の中でその存在が
輝き続けるものだと思います。
———Maki Onishi

状況の変化にリアクションすること。
それは自身との距離を測らせ、
新たな視点と許容をもたらせてくれる。
その継続は、想像すら出来なかった状況へと
つながっていくのではないかと思う。
出展作「Do It Yourself」は、
築100年になる京町屋耐震改修DIYプロジェクトである。
PCデータでは、コントロールしきれない状況が
そこにはあります。
———Koji Kakiuchi

わたしたちが今、建築について考えること。
場所について。そこにある対象について。
その状態について。それらの成り立ちについて。
私有という概念について。
あるいは私たちの経験のモードについて。
そしてそれらの事柄に関わってゆくことそのものと
その有機性について。
———Kimuramatsumoto

日々新しい建築が発表され続けていることに驚きながらも、
空間を作ることだけで出来るにとには、
もはや限界があるのでは無いかと感じています。
これまで、設計の対象に置かれてこなかったもの、
設計過程の下位にあったものを動員することで、
様々な社会に内蔵出来る設計の可能性に
興味を持っています。
———SPACESPACE

=建築について=
土地に付属し、人間が付属するもの。
———Tomonaga Tokuyama

設計プロセス及び施工、道具を捉え直すと同時に、
1つのコンセプトによって差異を省くのではなく、
様々な人々の思考の差異や、
様々な環境の差異を積極的に内蔵し、
協力と調整を計ることによって、
決して個人では生み出せない
集団のクリエイティビティによる建築を目指しています。
———dot architects

表現が的確かどうかまだわかりませんが、
全体が感じられる建物とそうでない建物があり、
感じられなくなったとき建物は魅力を失うような気がします。
それは単に建物の大小や
見渡せるかどうかといったことではないように思います。
それが何なのか見つけ出したいなと思っています。
———Ryuji Nakamura

ある建物の設計中に、
敷地前のアスファルト歩道が
煉瓦風タイルに模様替えされる計画を知りました。
役所にタイルを問い合わせ、
こちらの敷地内や1階の床にも、
あらかじめ同じタイルを敷き詰めておきました。
タイルの趣味よりも、
風景の分節をひとつ消すことに興味がありました。
歩道工事、ちょっと遅れているみたいです。
———Hideyuki Nakayama

建物のあり方は、気ままに選べるというものではなくて、
すでに定められたあり方として背負わされている。
しかし、ただ背負わされているだけでなくて、
自由というものをもっている。
あらかじめあるということがあり、そのなかにある、
というところに、建築の自由がある。
———Fuminori Nousaku

建築は現代都市に人間が生きるための方法である。
都市空間と都市生活の可能性を
鮮明に描きだす建築を探している。
———Go Hasegawa

自然と人工のあいだのような、
原初と未来のあいだのような、
内と外のあいだのような、
複雑と単純のあいだのような、
あることとないことのあいだのような、
そんな新しい建築を思い描いている。
———Sou Fujimoto

都市に建築を設計するということは、
密室にてピュアな箱をつくる作業とは異なる。
様々なノイズを肯定し、受け入れ、
自らの美学を乗り越えたところに
新たな美学を立ち上げる作業である。
超都市の建築とは、
そのようなカオス的な環境との格闘の先に獲得される、
崇高さを持つものではないかと思う。
———Ryuji Fujimura

何かをなくす代わりに、
他のものが豊かにうまれるようにする。
条件は前提をとりさってしまえばとるにたらないものになる。
問いにいかにうまく答えるかではなく、
問いそのものを変えるような
応え方があるのではないかと考えています。
———MTSUOKASATOSHITAMURAYUKI

建築家との対話力が構造家にとって
最も必要なスキルであることは今も昔も変わらない。
時代とともに変わりゆくのは、
対話を円滑に進めるために必要な知識
あるいは知恵の使いどころである。
時代にしなやかに対応しながら、
自分を変えずに、変幻自在に振舞う。
決して自分を変えてはいけない。
———Eisuke Mitsuda

建築の固有性と普遍性を
同時に扱えるような存在に興味がある。
たとえば切妻や寄棟などの屋根の形式が、
私の拠点とする京都の建築の固有性を表徴する
要素の一つであり、一方で世界中に同様の事例が
点在する普遍的な存在であるように。
地域性を継承しつつ世界とつながっているような、
マイノリティ・インターナショナルともいうべき
建築のあり方を模索している。
———Kazuya Morita

「建築未満の建築」をつくることで
建築の寛容さを取り戻せるのではないかと考えている。
法規、流通、コスト、分譲や賃貸、設計、
建築写真など建築を取り巻くさまざまなコードに対し、
建築から逆に力をかけて「未満」への道を切り開きたい。
———Yasutaka Yoshimura

Architects from HYPER VILLAGE

“超都市”
からの
建築家
たち

curated by TEAM ROUNDABOUT

Kumiko Inui
Jun Igarashi
Maki Onishi
Koji Kakiuchi
Kimuramatsumoto
SPACESPACE
Tomonaga Tokuyama
dot architects
Ryuji Nakamura
Hideyuki Nakayama
Fuminori Nousaku
Go Hasegawa
Sou Fujimoto
Ryuji Fujimura
MATSUOKASATOSHITAMURAYUKI
Eisuke Mitsuda
Kazuya Morita
Yasutaka Yoshimura

2010.8/6fri-10/2sat

Sundays, Mondays and Public Holidays Closed
10-14 August Closed for Summer Holiday
Open | 12:00-19:00

hiromiyoshii

1-3-2, Kiyosumi, Koutou, Tokyo, Japan
Tel: +81-3-5620-0555 Fax: +81-3-5620-0550
info@hiromiyoshii.com
www.hiromiyoshii.com

design: yuzokariya

建築は私にとって謎に満ちあふれた存在です。
建築とはいったい何なのか、そのことがとても気になります。
その回答は非常に小さな世界でみつかるような気もしますし、
反対に大きな世界で見つかるような気もします。
いずれにせよ、すごく繊細にものごとや
世界を見続けることが大切な気がします。
———Kumiko Inui

私は「ローカルな必然性」を意識し建築に取組んでいる
ローカルには様々な「状態」が存在する。
それら全てを等価に扱い、
丁寧に読み解くことで生まれる
「新しい普遍性」に可能性を感じている。
そして「新しい普遍性」を獲得することにより、
世界中に広がるそれぞれのローカルな風景が
素晴らしい光景へと変化していくことを夢見ている。
———Jun Igarashi

建築は、そこを訪れる人の気持ちを豊かにするものだと思います。
同時に、時間の中でその存在が輝き続けるものだと思います。
———Maki Onishi

状況の変化にリアクションすること。
それは自身との距離を測らせ、新たな視点と許容をもたらせてくれる。
その継続は、想像すら出来なかった状況へと
つながっていくのではないかと思う。
出展作「Do It Yourself」は、
築100年になる京町屋耐震改修DIYプロジェクトである。
PCデータでは、コントロールしきれない状況がそこにはあります。
———Koji Kakiuchi

わたしたちが今、建築について考えること。
場所について。そこにある対象について。
その状態について。それらの成り立ちについて。
私有という概念について。あるいは私たちの経験のモードについて。
そしてそれらの事柄に関わってゆくことそのものと
その有機性について。
———Kimuramatsumoto

日々新しい建築が発表され続けていることに驚きながらも、
空間を作ることだけで出来るにとには、
もはや限界があるのでは無いかと感じています。
これまで、設計の対象に置かれてこなかったもの、
設計過程の下位にあったものを動員することで、
様々な社会に内薄出来る設計の可能性に興味を持っています。
———SPACESPACE

=建築について=
土地に付属し、人間が付属するもの。
———Tomonaga Tokuyama

設計プロセス及び施工、道具を捉え直すと同時に、
1つのコンセプトによって差異を省くのではなく、
様々な人々の思考の差異や、
様々な環境の差異を積極的に内蔵し、
協力と調整を計ることによって、
決して個人では生み出せない
集団のクリエイティビティによる建築を目指しています。
———dot architects

表現が的確かどうかまだわかりませんが、
全体が感じられる建物とそうでない建物があり、
感じられなくなったとき建物は魅力を失うような気がします。
それは単に建物の大小や
見渡せるかどうかといったことではないように思います。
それが何なのか見つけ出したいなと思っています。
———Ryuji Nakamura

ある建物の設計中に、
敷地前のアスファルト歩道が
煉瓦風タイルに模様替えされる計画を知りました。
役所にタイルを問い合わせ、
こちらの敷地内や1階の床にも、
あらかじめ同じタイルを敷き詰めておきました。
タイルの趣味よりも、
風景の分節をひとつ消すことに興味がありました。
歩道工事、ちょっと遅れているみたいです。
———Hideyuki Nakayama

建物のあり方は、気ままに選べるというものではなくて、
すでに定められたあり方として背負わされている。
しかし、ただ背負わされているだけでなくて、
自由というものをもっている。
あらかじめあるということがあり、そのなかにある、
というところに、建築の自由がある。
———Fuminori Nousaku

建築は現代都市に人間が生きるための方法である。
都市空間と都市生活の可能性を
鮮明に描きだす建築を探している。
———Go Hasegawa

自然と人工のあいだのような、原初と未来のあいだのような、
内と外のあいだのような、複雑と単純のあいだのような、
あることとないことのあいだのような、
そんな新しい建築を思い描いている。
———Sou Fujimoto

都市に建築を設計するということは、
密室にてピュアな箱をつくる作業とは異なる。
様々なノイズを肯定し、受け入れ、
自らの美学を乗り越えたところに
新たな美学を立ち上げる作業である。
超都市の建築とは、
そのようなカオス的な環境との格闘の先に獲得される、
崇高さを持つものではないかと思う。
———Ryuji Fujimura

何かをなくす代わりに、他のものが豊かにうまれるようにする。
条件は前提をとりさってしまえばとるにたらないものになる。
問いにいかにうまく答えるかではなく、
問いそのものを変えるような
応え方があるのではないかと考えています。
———MTSUOKASATOSHITAMURAYUKI

建築家との対話力が構造家にとって
最も必要なスキルであることは今も昔も変わらない。
時代とともに変わりゆくのは、
対話を円滑に進めるために必要な知識
あるいは知恵の使いどころである。
時代にしなやかに対応しながら、自分を変えずに、変幻自在に振舞う。
決して自分を変えてはいけない。
———Eisuke Mitsuda

建築の固有性と普遍性を同時に扱えるような存在に興味がある。
たとえば切妻や寄棟などの屋根の形式が、
私の拠点とする京都の建築の固有性を表徴する
要素の一つであり、一方で世界中に同様の事例が
点在する普遍的な存在であるように。
地域性を継承しつつ世界とつながっているような、
マイノリティ・インターナショナルともいうべき
建築のあり方を模索している。
———Kazuya Morita

「建築未満の建築」をつくることで建築の寛容さを
取り戻せるのではないかと考えている。
法規、流通、コスト、分譲や賃貸、設計、建築写真など
建築を取り巻くさまざまなコードに対し、
建築から逆に力をかけて「未満」への道を切り開きたい。
———Yasutaka Yoshimura

1

2

3

4

5-6

7-9

10

11-13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

乾久美子 | Kumiko Inui | 1
1969年大阪府生まれ。東京芸術大学、イエール大学大学院、青木淳建築計画事務所を経て、乾久美子建築設計事務所主宰
———
五十嵐淳 | Jun Igarashi | 2
1970年北海道生まれ。BEN建築設計事務所を経て、1997年五十嵐淳建築設計事務所主宰
———
大西麻貴 | Maki Onishi | 3
1983年愛知県生まれ。東京大学大学院博士課程在籍。大西麻貴+百田有希共同主宰
———
垣内光司 | Koji Kakiuchi | 4
1976年京都府生まれ。大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業。阿久津友嗣事務所を経て、八百光設計部主宰
———
[木村松本] | Kimuramatumoto | 5-6
木村吉成：1973年和歌山県生まれ。大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業。狩野忠正建築研究所を経て、木村松本共同主宰
松本尚子：1975年京都府生まれ。大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業。木村松本共同主宰
———
[SPACESPACE] | 7-9
香川貴範：1974年大阪府生まれ。東京工業大学大学院修了後、坂倉建築研究所を経て、SPACESPACE
伊藤立平：1974年神奈川県生まれ。東京工業大学大学院修了後、日建設計を経て、SPACESPACE
岸上純子：1979年大阪府生まれ。関西大学卒業、神戸大学大学院修了後、坂倉建築研究所を経て、SPACESPACE
———
徳山知永 | Tomonaga Tokuyama | 10
1984年東京都生まれ。アーティスト、プログラマ。FABRICA(イタリア)インタラクティブ・アート部門を経て、現在パリを拠点に活動
———
[dot architects] | 11-13
家成俊勝：1974年兵庫県生まれ。関西大学法学部、大阪工業技術専門学校卒業後、dot architects共同主宰
大東翼：1977年兵庫県生まれ。大阪工業技術専門学校、関西大学経済学部卒業後、工務店勤務を経て、dot architects共同主宰
赤代武志：1974年兵庫県生まれ。神戸芸術工科大学卒業、宮本佳明建築設計事務所等を経てdot architects共同主宰

中村竜治 | Ryuji Nakamura | 14
1972年長野県生まれ。東京藝術大学大学院修了後、青木淳建築計画事務所を経て、中村竜治建築設計事務所主宰
———
中山英之 | Hideyuki Nakayama | 15
1972年福岡県生まれ。東京藝術大学大学院修了後、伊東豊雄建築設計事務所を経て、中山英之建築設計事務所主宰
———
能作文徳 | Fuminori Nousaku | 16
1982年富山県生まれ。東京工業大学大学院修士修了後、Njiric+Arhitekti勤務、東京工業大学大学院博士課程単位取得退学。現在、能作文徳建築設計事務所主宰、東京工業大学補佐員
———
長谷川豪 | Go Hasegawa | 17
1977年埼玉県生まれ。東京工業大学大学院、西沢大良建築設計事務所を経て、長谷川豪建築設計事務所主宰
———
藤本壮介 | Sou Fujimoto | 18
1971年北海道生まれ。東京大学を経て、藤本壮介建築設計事務所主宰
———
藤村龍至 | Ryuji Fujimura | 19
TEAM ROUNDABOUT参照
———
[松岡聡田村裕希]
MATSUOKASATOSHITAMURAYUKI | 20
松岡聡：1973年愛知県生まれ。東京大学大学院修了後、MVRDV、SANAAを経て、松岡聡田村裕希共同主宰
田村裕希：1977年東京都生まれ。東京藝術大学大学院修了後、SANAAを経て、松岡聡田村裕希共同主宰
———
満田衛資 | Eisuke Mitsuda | 21
1972年京都府生まれ。京都大学大学院修了後、佐々木睦朗構造計画研究所勤務を経て、満田衛資構造計画研究所主宰

森田一弥 | Kazuya Morita | 22
1971年愛知県生まれ。京都大学大学院修了。左官職人として京都の社寺建築の修復に従事したのち、森田一弥建築設計事務所主宰
———
吉村靖孝 | Yasutaka Yoshimura | 23
1972年愛知県生まれ。早稲田大学大学院修了後、文化庁派遣芸術家在外研修員としてMVRDVに在籍。SUPER-OS共同主宰を経て、吉村靖孝建築設計事務所主宰

[キュレーター]
TEAM ROUNDABOUT | 24
建築家、編集者、グラフィックデザイナーからなるメディア・プロジェクト・チーム。2002年、藤村龍至と山崎泰寛により活動開始、2007年より現編成。「議論の場を設計する」をスローガンにフリーペーパー『ROUNDABOUT JOURNAL』、イベント『LIVE ROUNDABOUT JOURNAL』、ウェブマガジン『ARTand ARCHITECTURE REVIEW』の企画・編集・制作を行うほか、書籍の出版、全国各地でのシンポジウムの開催、展覧会のキュレーションなどを精力的に展開し、独自の現代日本建築・都市論を提示している
www.round-about.org
aar.art-it.asia
———
藤村龍至 | Ryuji Fujimura
1976年東京都生まれ。東京工業大学大学院、ベルラーヘ・インスティテュート、ISSHO建築設計事務所共同主宰を経て、藤村龍至建築設計事務所主宰。2010年より東洋大学専任講師
–
山崎泰寛 | Yasuhiro Yamasaki
1975年島根県生まれ。横浜国立大学、京都大学大学院を経て、『建築ジャーナル』編集部勤務
–
伊庭野大輔 | Daisuke Ibano
1979年東京都生まれ。東京工業大学大学院を経て、日建設計勤務
–
藤井亮介 | Ryosuke Fujii
1981年香川県生まれ。東京工業大学大学院を経て、坂倉建築研究所勤務
–
松島潤平 | Jumpei Matsushima
1979年長野県生まれ。東京工業大学大学院を経て、隈研吾建築都市設計事務所勤務
–
本瀬あゆみ | Ayumi Motose
1980年長野県生まれ。東京藝術大学、東京工業大学大学院を経て、隈研吾建築都市設計事務所勤務
–
刈谷悠三 | Yuzo Kariya
1979年東京都生まれ。大阪工業大学、東京工業大学研究生、アトリエ・ワン、schtiixoを経て、独立

24 ©Katsuhiro Watanabe

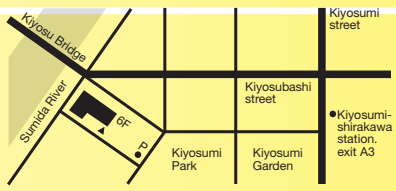
Architects from HYPER VILLAGE
“超都市”からの建築家たち

–

「Architects from HYPER VILLAGE」は、
2009年の「生成の世代」、
「ARCHITECTURE AFTER 1995」に引き続き、
私たちTEAM ROUNDABOUTの
キューレートによる若手建築家紹介の場として、
企画された展覧会である。
Hyper Vilage(=超都市)とは
聞き慣れない言葉ではあるが、
19世紀的な「City(=都市)」、
20世紀的な「Metoripolis(=大都市)」に対して、
21世紀的な都市の枠組みとして
磯崎新氏によって提唱されたものである。
私たちは「都市」に生まれ、「大都市」に学び、
「超都市」において建築を構想している。
そのことを問題にした展覧会を
企画してみようというのが
本展の趣旨である。
–
本展では、出展者の建築に向かう姿勢、
哲学のようなものを短文で表現してもらった。
次世代の建築シーンをリードするであろう彼らの
現在を切り取るような、
強度ある表現、議論の場にしたいと考えた。
–
TEAM ROUNDABOUT

Exhibition

———
Architects from HYPER VILLAGE
キュレーション：TEAM ROUNDABOUT
会期：2010年8月6日[金]–10月2日[土]
入場無料 | 12:00-19:00
日月祝休 | 夏期休暇:8月10日–8月14日
–
hiromiyoshii
〒135-0024
東京都江東区清澄1-3-2
Tel. 03-5620-0555
Fax. 03-5620-0550
info@hiromiyoshii.com
www.hiromiyoshii.com



Artist Talk

———
会場：hiromiyoshii
2010年8月21日[土]/乾久美子、中山英之 ほか
2010年8月28日[土]/中村竜治、長谷川豪 ほか
2010年9月4日[土]/五十嵐淳、吉村靖孝 ほか
–
●詳細は追ってご連絡致します。
●出演者は急遽変更となる可能性がございます。予めご了承下さい。
———

お問い合わせ先：
hiromiyoshii [担当：岡島礼史、小林睦美]
Tel. 03-5620-0555
info@hiromiyoshii.com

Architects from HYPER VILLAGE